

焼失前の社殿―吉野町吉野山で、成瀬匡章さん提供



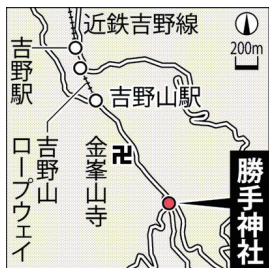
役行者が開山して以来

1300年以上、幾多の歴史の残影や悲話が残る吉野山。その町並みの中、蔵王堂から南へ。上千本と如意輪寺に向かう道が二手に分かれる手前に、勝手神社があります。

「勝手」とは吉野山の入り口という意味で、また勝負事や戦いの神として

勝手神社

(吉野町)



も信仰されてきました。吉野に隠れ住んだ大海

吉野山入り口 社殿復興願う

(住所) 吉野町吉野山2354
(祭神) 天之忍穗耳命、大山祇命、久々能知命、木花咲耶姫命、苔虫神、草野姫命
(交通) 近鉄吉野駅下車、吉野山口

「吉野山駅」から徒歩約25分
境内自由。駐車場無。
(電話) 0746-323024 (吉水神社)

人皇子(後の天武天皇)がこの神前で琴を奏でたところ、五色の雲の中から天女が現れ、袖を五度ひるがえして舞い、それが吉祥のしるしと伝えられています。この舞が宮中の「五節の舞」の起源とされ、大嘗祭や新嘗祭

でも舞われます。また鎌倉時代初期、源義経と別れた静御前が、吉野衆徒に捕らえられてこの神前で舞ったという伝承があり、境内には「静御前の舞塚」が残り、芸事の神として信仰されています。境内のベンチで、休憩や昼食をとるハイカ

ーの姿も見られます。今、ご神体は近くの吉水神社に遷座し、そこでご朱印もいただけます。再建の寄付も募っております。袖振山を背景とした本殿の早期復興・再建が望まれます。(奈良まほろばソムリエの会 副理事長 小野哲朗)